

学校目標・経営方針	高い志と挑戦する気概を持ち、何事にも主体的に取り組む生徒を育成する。
-----------	------------------------------------

山梨県立巨摩高校校長 横森 伸司

本年度の重点目標	1 自ら学び、自ら考える態度を育成し、学力の定着と向上に努める。 2 自主・自立の精神とコミュニケーション能力を培い、調和のとれた人格の育成に努める。 3 個に応じた進路指導の充実を目指すとともに、部活動をはじめとする特別活動やボランティア活動のさらなる活性化を図る。 4 生徒の一生懸命な取り組みを評価、支援し、誇りと感動をもって学校生活を営めるような指導に努める。
----------	---

達成度	A	ほぼ達成できた。(8割以上)
	B	概ね達成できた。(6割以上)
	C	不十分である。(4割以上)
	D	達成できなかった。(4割以下)

評価	4	良くできている。
	3	できている。
	2	あまりできていない。
	1	できていない。

自 己 評 価						
番号	評価項目	本年度の重点目標	年度末評価(3月19日現在)			
			具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果	達成度
1	「巨摩スタイル」のさらなる充実を目指して、ICTを活用した主体的・対話的で深い学びを追究し、教員個々の授業力強化を目指す取り組みを加速する	授業参観における管理職の指導助言を積極的に行うとともに、生徒による授業評価を適切にフィードバックし教師個々の授業への振り返りを深化させる。 面談等を通じて、家庭学習時間や学習方法について、個に応じた指導を行う。	授業参観参加票・生徒による授業評価アンケート 家庭学習時間調査・各学年での実施状況調査	全員の先生の授業に対して、管理職が春と秋の2回授業参観を行い、授業の評価及び指導助言を行い、その都度フィードバックすることで授業改善への取り組みを加速させるよう努力した。プロジェクトを増設するなどICT環境の整備も行った。	B	生徒を主体的に活動させる「巨摩スタイル」授業にICT活用を取り入れることで、対話の時間を確保するなどして、深い学びにつながる授業改善に向けた研修などの取組が必要である。
2	進路目標実現のため、教科、学年、分掌が協調しながら、一丸となって指導を推進する	生徒一人一人が高い目標に向かって切磋琢磨できる学習環境を整える。 挨拶運動、清掃活動などにおいて、教師自らが「明るく、楽しく、前向きに」の実践をする。 生徒の自己肯定感を高められるような働きかけを行い、学校生活及び進路目標の設定の適切な指導を進める。	授業評価アンケート 進路実績 学校評価アンケート	担任や学年の先生との信頼関係ができているという生徒が8割を超え、進路意識の高揚を図るための取組も高評価を得ている。 家庭学習時間の確保に向けて、学習記録表の活用法の検討など生徒の主体的な活動を促す指導の検討が必要である。	B	生徒の進路実現に向けた家庭学習の時間を確保させる取り組みが重要だと考える。どのような指導が主体的な取り組みにつながるかを検討し、改善策を示す必要がある。
3	部活動などの特別活動において、生徒が自己肯定感、充実感を持てるような指導を実践し、誇りと感動にあふれた学校となるよう努力する	部活動、学校行事、特別活動およびボランティア活動に積極的に取り組む、意欲的な向上心あふれる生徒を育成する。 心のケアや特別支援教育について、指導方法の共通理解と相談体制の充実に努める。	生徒による学校行事等に関するアンケート 学校評価アンケート	生徒の部活動や学校行事等の生徒会活動への積極的な取り組みは、学校を活性化させている。 カウンセリングマインドを持って生徒に接すよう教職員の共通理解を図った。	B	部活動や学校行事等はこれからも積極的に取り組ませていく。 生徒の心の悩みなどを早期発見できるように体制づくりが必要である。
4	本校の特色や活動の成果をあらゆる機会を通じて地域に発信・紹介し、信頼される学校作りに努める	地元中学校との連携を強化し、学校説明会やオープンスクール等で積極的に広報するとともに、学校案内や巨摩高だより、ホームページなどの内容を一層充実させる。 地域や家庭と協力しながら、防災・安全教育に力を入れる。 防災教育に関する効果的な取組を企画し、キャリア教育の充実を図る。	学校評価アンケート 学校評価アンケート 学校評価アンケート	学校説明会やオープンスクールで本校の魅力を発信したことにより、本年度は前後期ともに定員数を超える志願者数となった。しかし、ここ数年募集定員の減少が続く、生徒数・教職員数が減ることにより、様々な弊害も生まれてきている。これからも地域に根差した学校づくりを行い、定員減を防ぐとともに、地域に根差した学校を作り上げていく必要がある。	B	地域に根差した学校として、どのような活動が必要であるか、また、地域の避難場所としてどのようなことを地元の人たちから求められているのかを確認、検討する必要がある。
5	スーパーサイエンスハイスクールで培ったノウハウを活かすとともにユネスコスクールの強みを活かして、自然科学教育、国際理解教育を実践できる教育体制整備に一層の力を注ぐ	コースやクラスの特性を活かした教育課程の編成と授業内容の工夫・改善を図る。 SSHで確立された事業に加えユネスコスクールの事業を積極的に活用する道筋を確立する。 活動の情報発信を学校内外に積極的に行い、充実した成果を目指す。	教育課程委員会・進路検討会等での検討 学校評価アンケート・ユネスコスクール事業参加状況 学校評価アンケート	理数創造コースを中心に、SSH事業の継承はできているが、予算的な裏付けがないのが現状であった。次年度は県のキャリアビジョン育成支援事業として取り組むことにより、若干ではあるが予算措置をしてもらえることになった。 米岡研修は残念ながら中止となってしまったが、次年度は実施できることを期待している。	A	「橿形山研修」「わくわくサイエンス」は地域交流事業の一つである。地域からも期待されている活動であるため今後も発展させていく必要がある。そのためには、学校全体の行事として全職員で取り組む体制づくりが必要である。

学校関係者評価	
実施日(令和2年2月12日)	
評価	意見・要望等
2	「巨摩スタイル」の取組について、改めて具体的な活動やその意義について考える時間を確保し、職員研修や意見交換を行うなどして、さらなる向上を目指してほしい。 生徒は落ち着いた環境で学習に取り組んでいる様子がうかがえる。
3	三者懇談等を通して、生徒・保護者・教職員の相互理解が図られていることは大変良いことだと思います。 生徒の家庭学習時間の確保について、「学習記録表」等の有効活用を検討し、進路実現に向けた取り組みをさせてほしい。
3	生徒が部活動・学校行事等に意欲的に取り組んでいる様子がうかがえる。また、けがや病気の対応についても概ね高評価になっていることはよいことである。 カウンセリングマインド・教育相談体制の充実、生徒が安心できる場としてとても重要です。今後もアンケート結果を分析し、心の悩みの早期発見を期待します。
3	運動部の中学生との部活交流や吹奏楽部が南アルプス市立美術館で行うフロントコンサート等これからも地域との交流を進めてほしい。
3	「橿形山研修」や「わくわくサイエンス」は、地域の小中学生にとってとても魅力的な行事であり、その行事に参加した生徒がいよいよ入学してくる。今後も事業の継続をお願いしたい。

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。
 (2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的な対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。